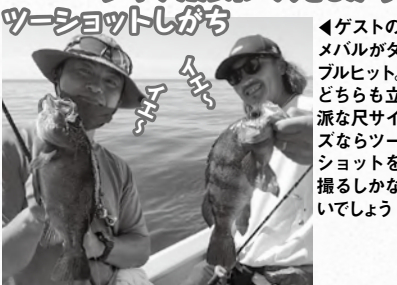


当日のマダイ船で見つけた 日立沖のテナヤ釣り 〇〇しがち+シーン

▶ほぼ入れ食い状態でご満悦のヨッシー。テンションが高まり、おなじみのジャッカルポーズ



顔を膨らませがち

▶フグが釣れると思わず顔を膨らませて写真を撮った経験がきっとあるはず



タイラバ釣り

◀ことぶき丸ではタイラバやタイジギングもOK。投げて斜めに引いて食わせ



エサをおまらせがち

▶当日はとにかくアタリが多くエサの消費が多かった。沖揚がりまでにエサを使い切るともっていたがわずかに残ってしまった



大物ゲストを釣りがち



▲船長が「毎日ヒラメが釣れています」と話していた直後に大ヒラメらしきヨッシーにヒット。PE0.8号なので慎重なヤリトリで上がってきたのは、船長も驚きのカサザメ



▲ラストを飾った1キロ級のマダイ

水深20メートルで深く感じる!? 横から縦の釣りでサイズアップ

終盤、齋藤船長はことぶき丸を深場に回した。深場といっても、水深20メートル前後である。とはいえ、それまでの2倍だ。

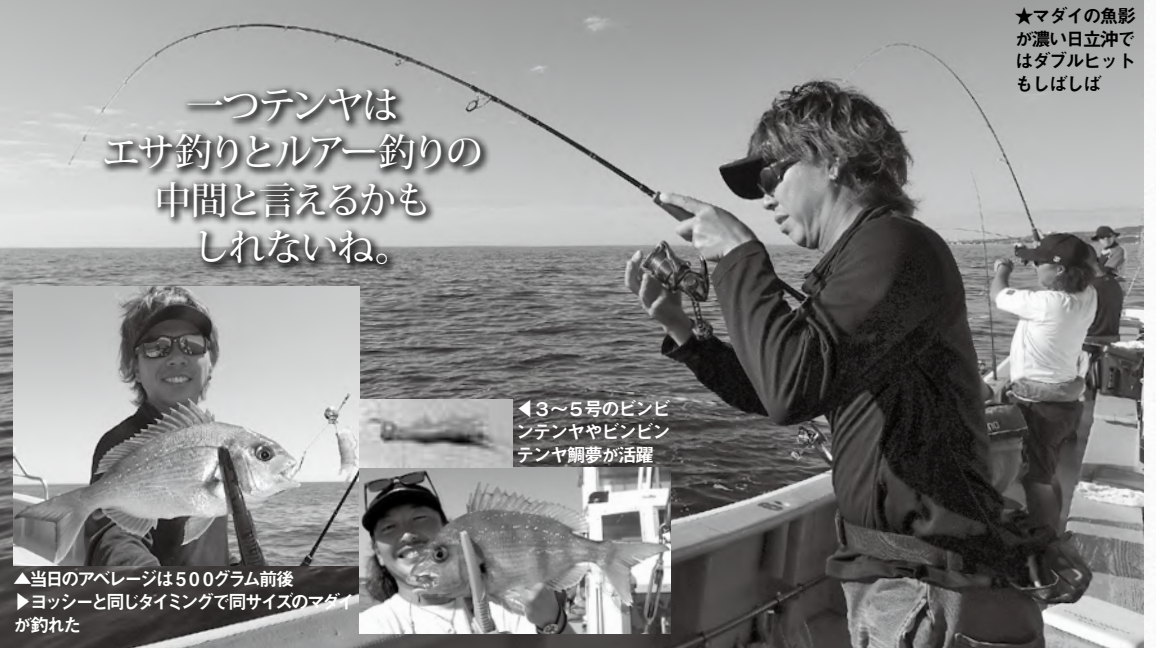
だが、ヨッシーに教わったことで、海中のマダイの姿が見えたような気がした。底から浮いたところで、元気に素早くエサを追うマダイの姿が……と、タカハシゴイは言った。本当に分かっているのはアヤシイところだが、この日のパターンをつかんだことは確かだったようだ。

「今まで一つテナヤには縦のイメージしかなかった。今回は自分としてはあまり経験のない浅場で、なかなか横の釣りができなかった。

「く〜ッ、たまらないね〜」喜色満面。「おうおうおう」と言いながらマダイの引きをいなし、笑顔でヤリトリを楽しんでいる。上がってきたのは、1キロ級のマダイだ。決して大ダイではないが、小型中心のこの日としては上出来。ヨッシーが最後に決めた。



▲船長が駆け寄りタモ取りしてくれた



一つテナヤはエサ釣りルアー釣りの中間と言えるかもしれないね。



▲当日のアベレージは500グラム前後
▶ヨッシーと同じタイミングで同サイズのマダイが釣れた

◀3~5号のピンピンテナヤやピンピンテナヤ鯛夢が活躍

★マダイの魚影が濃い日立沖ではダブルヒットもしばしば

動きを速めてるんだよ」つまりヨッシーの言う「食われないように、逃がしている」とは、ゲストにエサを食われないように、テナヤを速く動かすことだったのだ。ゲストから逃げて本命を掛ける。それがすなわちエスケープの意味である。「ゆっくり見せる、ゆっくり食わせる」という固定観念にとらわれていたタカハシゴイは、だから、ゲストにやられてばかりだった。

エサ釣りルアー釣り、その両方の要素を持っているのが一つテナヤ最大の魅力かもしれないなあ」10メートル台を中心に、ときには6メートルという超浅場も果敢に攻めることぶき丸。しかも、ゲストが多い。であれば、キャストしての横引きをベースに、カーブフォーからの素早い巻き上げ、そしてカーブフォーの繰り返しがこの日のマダイ攻略のキモだ。「ゴーさんは、テナヤが着底してから巻き上げ開始がちょっと遅いんだよ。モタモタしてる

から、すぐにゲストに食いつかれてる」「ううむ、そうであったか……」「ついでに言うっておくと、おれはほとんど着底もさせてないよ。底から1メートルぐらいまでカーブフォーをさせたら、巻き上げて。マダイは少し浮き気味だからね」「う、ううむ……」

●素早いロッドアクションでエサ取りを避ける

